

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	療養通所マザー こどもデイサービスにじ		
○保護者評価実施期間	令和5年9月1日		令和6年9月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和5年9月1日		令和6年9月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年9月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障害と医療的ケアの必要な児に対する健康維持 事業所内の訪問看護師やセラピストとの情報共有	看護師の配置を多くし手厚く医療ケアなど実施できている 所内のSNSなどを利用し、訪問時や通所時の様子を共有化 している 児童指導員等・看護師・セラピストそれぞれの立場の専門性 をお互いに学び合う	訪問看護・訪問リハビリと通所の職員間での支援会議により 共通した支援の取り組み 研修参加で直接支援にとどまらず、地域支援や国、県の動き 等への関心を広げていくために研修や資料などによる学びを 深めていく
2	将来的な自立のひとつとして入浴支援が可能 入浴も療育活動の一つと捉え心身のリラクセスに繋げている 家庭での入浴支援の困難性が生じ始める事も支援開始のタイ ミングとしてアセスメントしながら開始する	そろそろ入浴支援が必要かと思われる状況を訪問看護と共有 しながら、面談などを利用し本人・家族と協議する	毎回の入浴支援はできない場合、家庭内での環境調整ができ るか（住宅改修など）や、別の方法での支援方法を支援チー ムとして相談支援員等とも協力し協議する
3	家庭生活でも身近な小さな体験の積み重ね （散歩・地域の色々な場所へ行く・地域イベント参加・水遊 び・園芸土いじり・大人利用者とのふれあいなど） セラピストの介入によりひとつひとつの活動の幅が広がる	生活リズムを作るために午前中の戸外に出る事から始め、五 感を刺激しながら可能性を広げていけるようにする 異年代の方々とふれあう事で家族以外との人間関係の構築を 目指す	当面左記を継続

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	成長に伴いバギーが大きくなってきており、保管場所などの 物理的環境としてはやや手狭になっている。	全員がバギー等の媒体を利用しているため、そのスペースが 不十分	別棟を設置する予定
2	地域住民を招待してのイベントなどの企画ができていない	利用者の状態像により支援者の数が絶対数多く必要で、マン パワー不足もある	事業所内のみでの対応ではなく、法人全体としての行事の一 環として取り組んでいく方向で検討
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 療養通所マザー 子どもデイサービスにじ

公表日 2024年10月10日

利用児童数 2024年 9月 17 日 回収数 2

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2					
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2				・お祭り楽しかったです	来年度も開催したいと思います。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2				・紙ベースじゃなかったらもっといいです	そうですね、次回はGoogleフォームなどの活用を検討致します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2					
	29	事業所の支援に満足していますか。	2				・いつもありがとうございます	

公表

## 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名	療養通所マザー こどもデイサービスにじ				公表日	2024年 10月 10日	
	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13	2	1	利用者の状態によりベッドを移動しスペースを確保している	フロアで過ごしていた児も成長と共に抱きかえが困難になってくるため工夫が必要
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0	1	手厚い職員配置にてじっくり向き合える時間が持てる	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14	1	2		状態像や活動内容によって備品が動線の妨げになっている事がありスケジュールを見越し配置の工夫をする
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	1	0	カーテンで個別空間を確保できるようにしている・室温湿度調整・換気・消毒・整理整頓を心がけている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	0	0	児の状態に合わせ個別の場所が使用できるようになっている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	1	1	職員の働き方の多様性はあるため、通所会議で全体に周知できるようにしている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	1	保護者向け評価表、並びに保護者面談時に意見等を把握し早急の改善の場合は検討を急ぎ、保護者へ返している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	1	0	職員から意見が出ている場合は早めに対応し職員間で共有できるようにしている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13	3	1	療養通所介護事業と一体的に実施する中で安全サービス管理提供委員会や運営推進会議内で行政・地域住民・利用者家族等参加・公表し助言を受けながら業務改善につなげている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	0	0	年間研修のスケジュールに基づき研修を行っている。外部研修などの案内から申し入れがあった場合は対応している	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14	1	1		年度内に作成と公表予定
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	16	0	1	活動中に児童発達支援管理責任者中心に直接支援職員・その利用者を含め計画の評価や今後の事を話し合う時間を確保している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	1	活動中に児童発達支援管理責任者中心に直接支援職員・その利用者を含め計画の評価や今後の事を話し合う時間を確保している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	0	1	個々の計画に基づいた支援が紐づけできるよう共有ファイルを設置している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	3	1		遠城寺式の発達状況のツールを参考にしていたが、今後、重心等のアセスメントツールも取り入れていきたい
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14	0	2	今年度より5領域への支援を踏まえ計画立案している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	0	1	年間計画に添って、大枠を検討し、詳細は児童指導員等が中心に検討を進めている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	0	2	季節ごとの活動以外は、個々の特性に応じて繰り返し実施するプログラムもあるが、努めて固定化しないよう工夫している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14	0	2	放課後等デイサービスの利用者に交じり、集団活動を行う事はあるが、現状は発達支援の状況から個別活動が主となっている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	16	2	2	事前チーム分けを予定しイメージ化した状態で始業開始。必要時に、始業前又は始業開始後に実施している。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	4	2	毎回全員での振り返りはできない。ただし、個別にひとりひとりの振り返りは担当職員と共有し情報伝達ツールを使用し職員全員と共有している。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	0	2	日々の支援についての検討事項については次の支援までに支援の方向性を検討し改善につなげる努力をしている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	0	2	児童発達支援管理責任者が中心に対応し、計画の見直しに繋げている		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	0	2	主に児童発達支援管理責任者が対応するが、今年度は会議開催が今のところない		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	0	2	必要な場合、関連機関との連携をとりながら支援を実施している		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	2	2	必要な場合、関連機関との連携をとりながら支援を実施している		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	1	教育委員会や、特別支援学校との間での情報共有している。実際に訪問して頂きながら児の様子をみながら支援の実際を見て頂いている		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。						
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。						
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。						
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	1	7	児童発達支援センターを併用している利用者が居ない		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	10	3	こどもの状態像からその機会になかなか踏み込めていないが、公園などで出あった地域のこども達には代弁して挨拶ややり取りを行っている		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	2	定期的な保護者面談以外にも、送迎時や電話での相談に乗り、その内容についても職員間で共有化している		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	1	3	茶話会を通しての専門職からの講話や、会報を通して情報提供を行っている		
	保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	0	3	運営規定は見える場所に設置している 利用者負担については改訂の度にお便りにて周知している	支援プログラムとしての公表は今年度内に行う
		36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0	3	計画時には話し合いに児も参加し意見を取り入れるように対応、面談時は保護者の意思が尊重する中で利用者ファーストも意識し対応	
37		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12	0	3	定期的な面談を通して同意を得ている		
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	0	3	子育て全般やその他の相談も送迎時や面談時に傾聴し支援が必要な場合は関係機関と連携をとったり情報を共有している		
39		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	0	2	父母の会の活動での協力や季節イベントを通してきょうだい児の交流の機会を設けた		
40		こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	0	2	送迎や入浴支援についても、計画に反映しながらできるだけ速やかに体制を整えるよう努力している		

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13	0	2	HPやSNSの活用、広報誌の定期発行し情報発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	1	2		名前が書いてある紙や作品を破棄する際配慮不足があったため、シュレッダー後の破棄を徹底する
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0	3	日々の活動の様子を通して新たな発見や、様子を保護者に伝えたり、子どもと職員のやりとりの方法を伝えるようにしている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	2	3	事業所内行事に留まってしまう事が多いが、地域の季節行事や近隣のお店に出向き、地域の方々と交流を図る機会を設けている	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	0	2	広報やSNSを活用し訓練の内容を伝えたりお便りなどで家族への周知を図っている。職員については、研修や訓練を通し実施している	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0	3	BCP見直しと周知は年度初めに実施し、訓練は年間スケジュールに添って実施している	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12	0	3	処方箋のコピー、薬の増減など受診結果と併せて確認し、てんかん発作時の対応については医師の指示書に基づき対応している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	0	3	医師の指示書ではなく、保護者からの聞き取りが主体となって留意している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	0	3	個別性の高い支援の内容については、マニュアルを策定している。検討課題があった場合は修正し対応している	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	0	2	年一度の引取訓練や情報伝達訓練の参加を実施、お便りなどで周知をはかっている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	0	1	会議内で共有し再発防止対策を行っている	再発防止対策は、内容により会議を待たずに早急に共有し対策を講じる
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	1	虐待防止委員会を設置し職員研修の機会を設けている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15	0	1	身体拘束にあたるのかどうかの審議は組織的な審議と共に、保護者にも十分説明し計画に反映させている	